

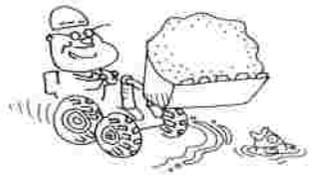
市民にとって 何のメリットもない

2市2町
宇治・城陽・井手・宇治田原

合併はストップを



2市2町とも
財政は大丈夫



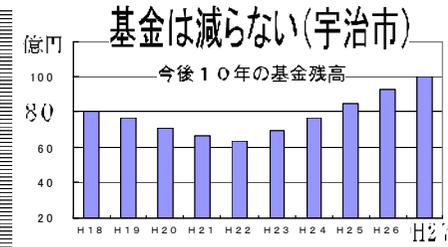
合併推進派の本音？

合併を口実に

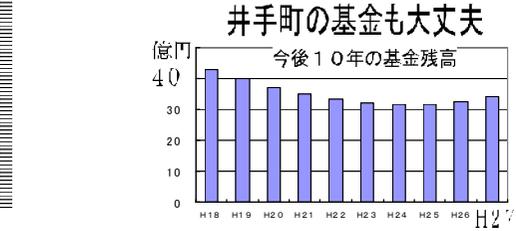
大型公共事業の推進ねらう

城陽で第2名神の建設促進
山砂利跡地へ自衛隊移転
大久保へ新庁舎など移転

第3回任意協で合併後の新市構想案が示されました。中身は、合併を口実に、大型公共事業が目白押しです。



【任意協の資料より作成】



3月20日、宇治・城陽・宇治田原・井手の第4回任意合併協議会が開催され、合併しない場合の各市町の財政シミュレーションが報告されました。
2市2町とも基金(貯金)の範囲内で財政運営でき、破たんしないことが明らかになりました。

財政的にも合併は不要

任意協が財政シミュレーション

伊根町

自主財源は少なくても
住民の暮らしを守るため自立を選択
子どもの医療費 中学卒業まで無料化
保育料の値下げなど実現



丹後半島にある人口3千人の自主財源の乏しい小さな町・伊根町。合併したら住民の暮らしが守れない。住民の暮らしを守るために、合併ではなく自立を、住民投票で選択しました。
伊根町は、子どもの医療費は中学校卒業まで無料であり、保育料の引き下げなどを実現しています。

2市2町の財政は豊か

財政力指数 H27年度

宇治市	0.79
城陽市	0.64
井手町	0.46
宇治田原町	0.71
伊根町	0.13
京丹后市	0.36
綾部市	0.48
八幡市	0.68

【財政力指数】
自主財源の多さ、財政の豊かさを示す。1に近いほど豊か。

建設費用を宇治市民に転嫁？

城陽を通る第2名神・高速道路の計画は、国ですら採算性・必要性から保留。
建設には地元自治体の莫大な負担が予想されます。この合併は宇治市民に負担を転嫁するものです。

不要な新庁舎建設

大久保地域に「新都市の行政サービスの中核的機能」を移すことを表明。
今の市役所庁舎を無駄にし、新庁舎建設などに莫大な費用が必要です。



幻想

無関係な問題を意図的に混同
合併問題と自衛隊問題



幻想を市民に抱かせるものです。合併すると大久保自衛隊が「新市内適地」(城陽の山砂利跡地?)に移転できるかのような構想が示めされています。合併と自衛隊は全く別問題で、移転は誰も約束していません。意図的に混同して、合併への

調査を請け負うコンサル業者の企画提案書

「法定協設置」の結論に誘導

是非をストレートに問うと「非」になる「危険性」
そうならないように「柔軟な設問や選択肢」を提案

これでは

「住民意向」を作り変えるもの

「PERSUASION」



2市2町の任意合併協は、合併に向け
コマを進める「法定」協議会の設置をめ
ざし、今年の夏に「住民意向調査」を予
定しています。調査は業者に委託して行
います。業者から企画
提案書の提出を求め、
業者選定しました。
その企画提案書には
「法定協議会の設置の
是非について、(市民
に)直接おうかがいす

るようなアンケートは好ましくない」「非」
と判断されるようなことが起こる危険性があ
ります」と述べ、だからそうならないように
「柔軟な設問や選択肢とすることを提案しま
す」とあります。
つまり「住民の多数が法定協設置を望んで
いる」と意図的に解釈できる「設問と解釈の
仕方」を提案しています。
これでは「住民意向」を都合よく作り変え、
住民に合併を押し付けるも
のです。

そもそも

無理な合併話だから

任意協は解散を



宇治市当局は、議会で「コンサル
を決めるために提出された企画書。
これから任意協のなかで、アンケー
トの実施方法についても議論してい
く」と述べています。しかし、この
企画内容が意に沿っていただけら
こそ、
この業者を選定したわけです。
そもそもこの合併話には大義もメ
リットもないから、無理な意向調査
の企画提案になるわけです。この合
併話は中止し、任意協は解散すべ
きです。

委託業者の
企画提案書

調査設問は当初計画
から変更になっています

この夏予定の
住民意向
調査

2 住民意向調査の実施及び分析手法

住民意向調査は「開陽市町が合併に関して法定協議会を設置して検討するかを判断する材料とする
こと」を目的として実施することですが、弊社は、前述でお示ししました「策定方針」を踏ま
えつつ、下記の点を重要なポイントにおいて住民意向調査を実施することをご提案します。

- (1) 法定協議会への移行を見据え、柔軟な設問や選択肢に留意します
- アンケート調査を実施する段階（12月頃）では、7月～12月までの約6ヶ月間の間、様々
な形で住民に対して合併に関する情報提供してきた段階とはいえ、まだ、多くの住民にまで
合併問題に関する関心が高まっていることは難しいと思われます。
 - 住民側の合併に対する知識、熟度が高まっていない段階で、新都市構想のような概念的な情
報のみで、法定協議会の設置の是非について、直接おうかがいするようなアンケートは好ま
しくないと考えます。（合併に関する知識をそれほどお持ちでない方などが、「何となく反対」
ということで「非」と判断されるようなことが起こる危険性があります。）
 - 以上のようなことから、この段階においては、合併の是非の検討も含めて検討する法定合併
協議会への設立することを念頭におき、首長や議会が政策的な判断が可能となるよう、柔軟
な設問や選択肢とすることをご提案します。

<設問イメージ>
問. 2市2町における今後の合併の取り組みについて、あなたはどのように考えますが、あては
まるものに1つ○をつけてください。

1. 法定協議会を設立して、合併する方向で前向きに将来のまちづくりについて検討し
ていくべきであると思う。
2. 法定協議会を設立して、合併の是非(合併するか、しないか)も含めて継続的に協
議していくべきであると思う。
3. 近い将来合併する必要があると思うが、法定協議会を設立し、合併を検討するにあ
たっては、十分な配慮が必要だと思う。
4. 法定協議会を必要はないと思う(合併するか、しないかの検討は必要ないと思う)
5. わからない

- 選択肢1～3については、程度の差はあるものの、少なからず合併の必要性を感じている、
もしくは継続的に合併協議を進めていくことを望む住民の層であるといえます。
- このように、法定協議会の移行に関する住民意向について「○か×」かという二択とはな
らないような配慮が必要であると考えます。

- 法定協議会への移行について反対を示している層といえますが、継続的でわかりやすい情
報提供を図ることにより合併に対する理解醸成に努めていくことが必要と考えます。

合併や
中核市に
幻想
いただくより

市民の地道な協働の力で
すぐきな宇治をつくりあげよう